

JESK HORIUCHI 新社屋計画

プロジェクト背景

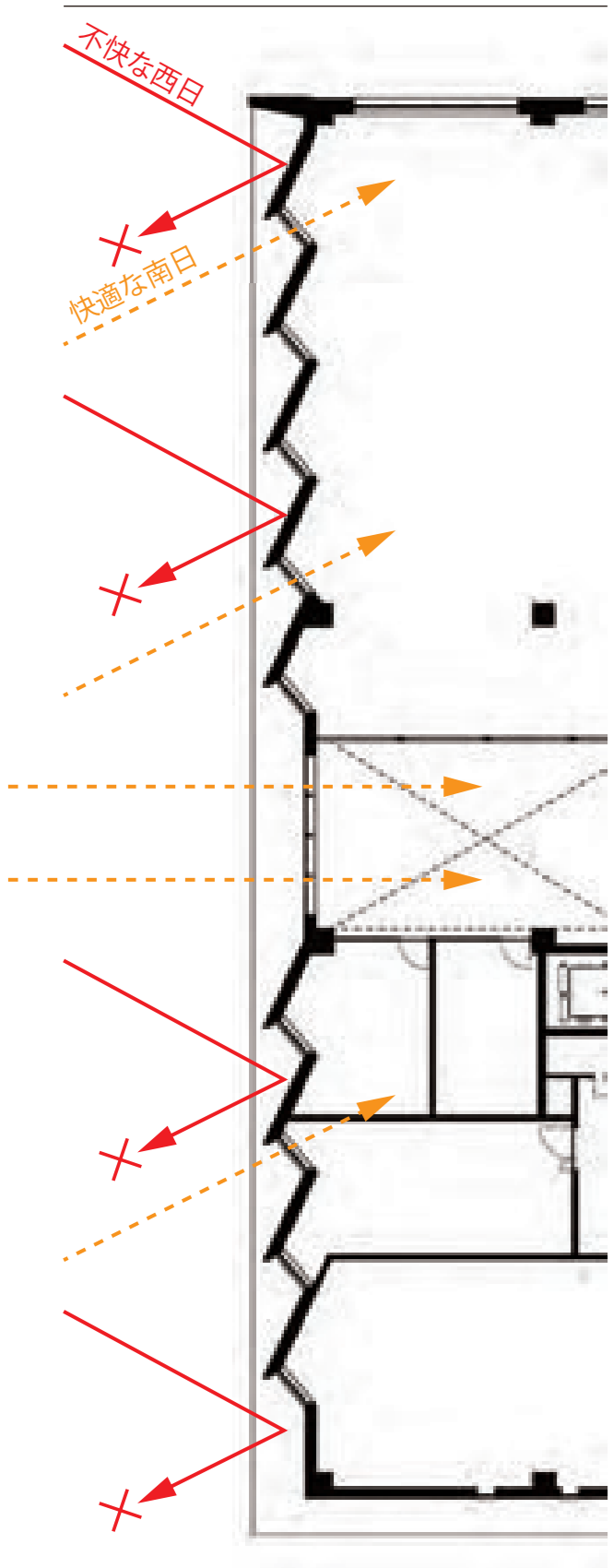
大正15年に金沢の地に創立した歴史ある商社「ジェスクホリウチ」の100周年記念事業として新社屋設計のプロジェクトが開始した。プロジェクト開始時は全国的にコロナ禍による影響を受けており、社会の変動の中で計画を行う必要があった。

計画コンセプト

外壁を前面大通りに対して斜めに設え、建物を臨む角度によりガラス面と壁面が切り替わる印象的なファサードを演出している。斜めの外壁は西日を遮蔽し南東からの暖かな日差しを取り込む機能性を有し、執務空間からは白山麓が眺められる計画とした。更に日射遮蔽・自然採光・通風を取入れることで「カーボンニュートラル」や「SDGs」に対応可能な建築設計とした。建物の色彩計画は全体的にグレーで統一することで、金沢市の景観に溶け込みながらも印象的な建築となるよう配慮した。また、南東に伸びる2つの庇が水平ラインを強調し、建物全体のバランスを取っている。シンボリックなデザインと環境面を考慮した機能性を併せ持つ建築物となっている。

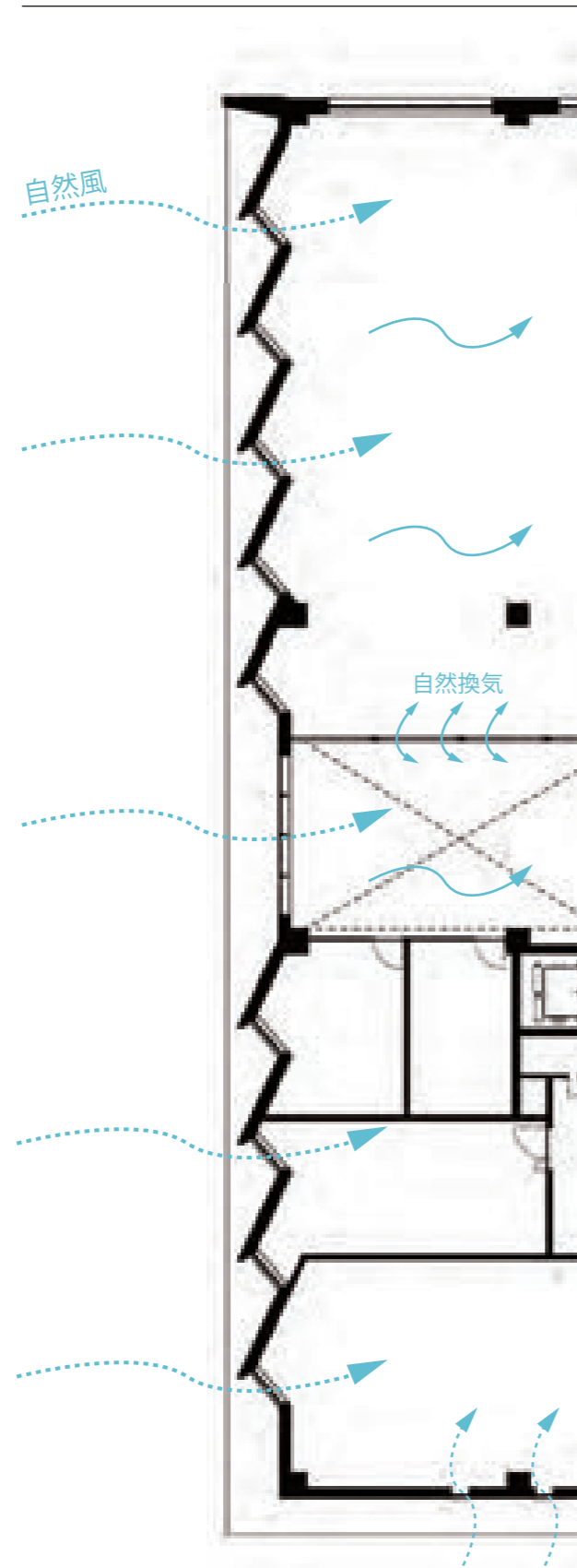


①: 熱負荷の低減



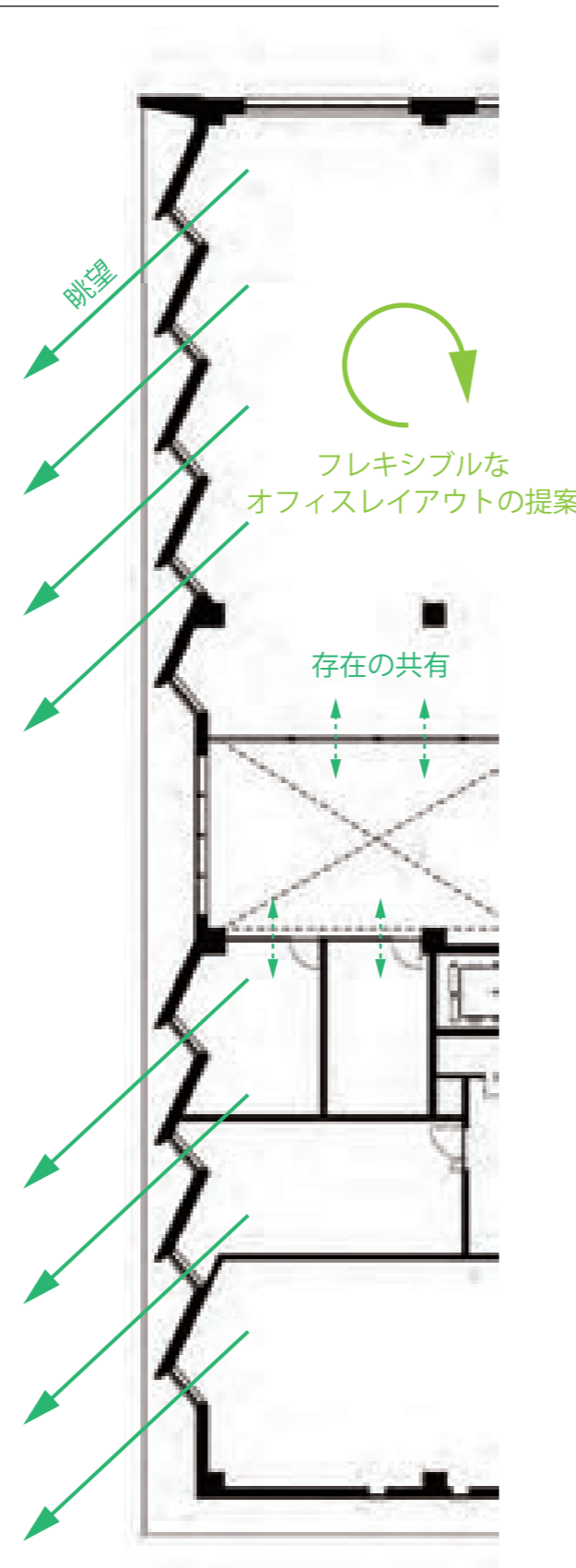
“斜窓”と“斜壁”を前面道路側に設けることで、不快な熱を持つ西日を遮蔽する計画とした。快適な南日はオフィス内に取り込み、熱負荷の低減を図った。

②: 積極的な自然換気



“斜窓”の適所に換気スリット付開口を設け、自然風を積極的に取り込み快適なオフィス空間の促進を図る。同時に自然換気を促すことで感染対策にも有効に働きかける。

③: 新しいオフィス環境の提案



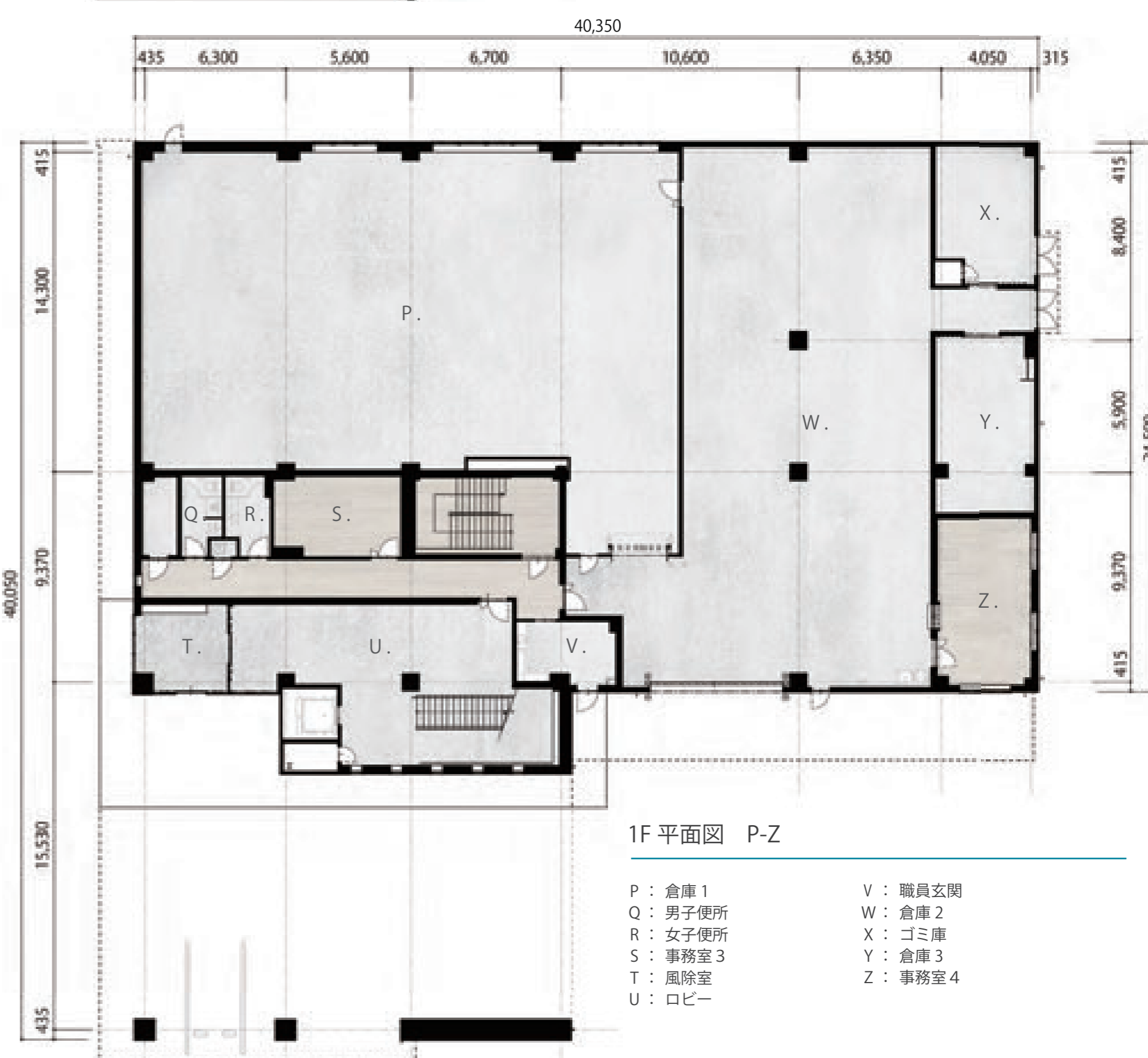
“斜窓”からは霊峰白山を臨むことができる。社屋のコアとなるミーティングテラスはガラスの透明性により、各々の存在を曖昧ながら共有する。同時に変革するワークスタイルに合わせたオフィスレイアウトを取り入れ、新しい社屋の可能性を様々な視点から見出した。

平面図 S=1:200



2F 平面図 A-O

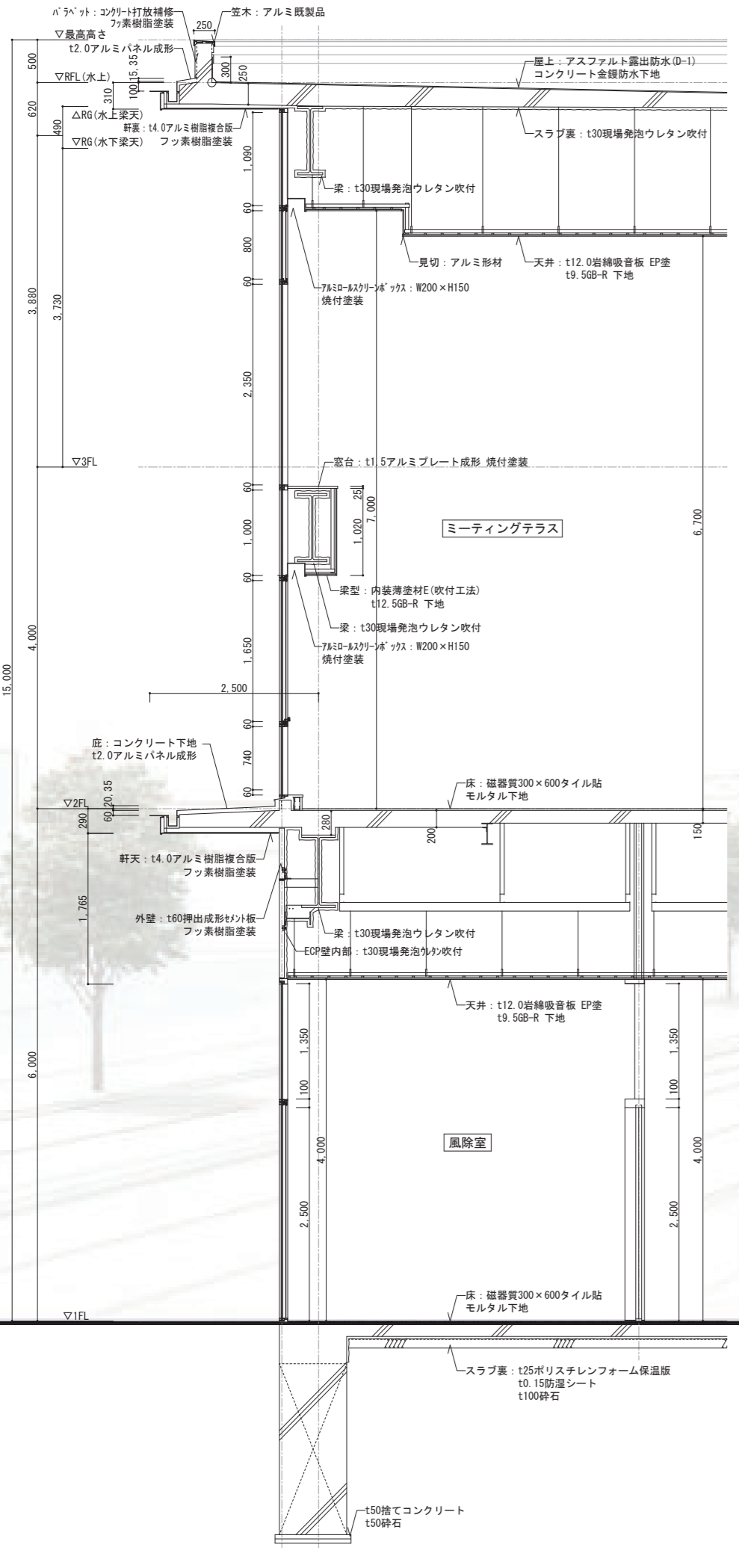
- | | |
|--------------|----------------|
| A: 事務室 1 | J: ミーティングルーム 1 |
| B: 事務室 2 | K: ミーティングルーム 2 |
| C: 書庫 | L: 応接室 |
| D: ミーティングテラス | M: 会議室 |
| E: 倉庫 1 | N: 男子便所 |
| F: 倉庫 2 | O: 女子便所 |
| G: 休養室 | |
| H: 屋上 | |
| I: 食堂 | |



1F 平面図 P-Z

- | | |
|----------|----------|
| P: 倉庫 1 | V: 職員玄関 |
| Q: 男子便所 | W: 倉庫 2 |
| R: 女子便所 | X: ゴミ庫 |
| S: 事務室 3 | Y: 倉庫 3 |
| T: 風除室 | Z: 事務室 4 |
| U: ロビー | |





パッシブデザインを活用したオフィス

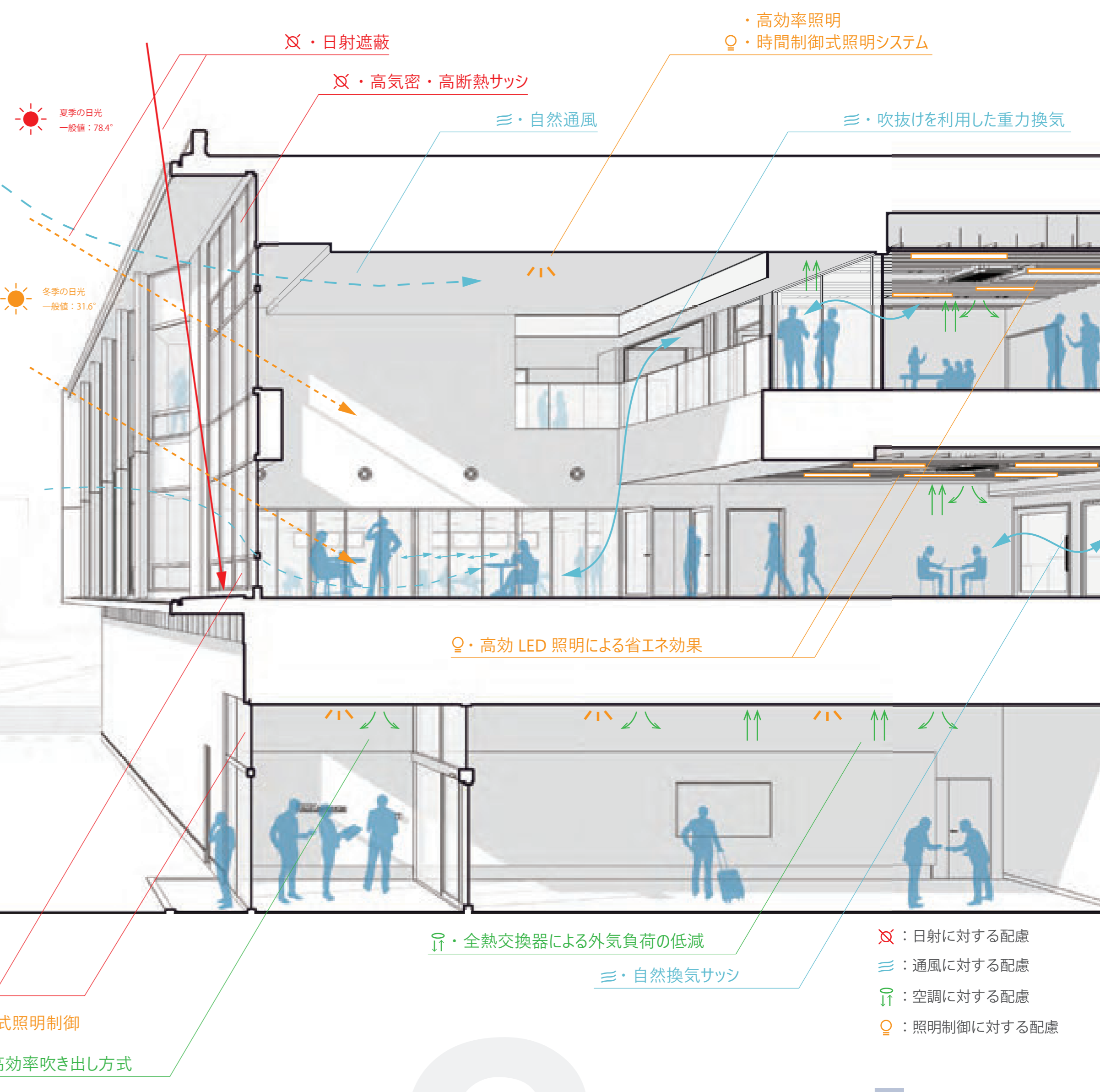
●日射遮蔽対策
 オフィスにおいて、メインの採光面となる南側には約 2.5m の庇を設ける計画とした。デザイン性も兼ね備えた庇により、夏季の高温を帯びた日射は遮蔽し中間期・冬季の自然採光は積極的に取込む建築的配慮を施した。開口面のサッシは高気密・高断熱仕様を採用し、ガラスは高性能 Low-E 複層ガラスとする遮熱・断熱方針とした。

●自然通風対策
 計画地は全面に大通りがあることから、南西から計画建物側へ自然風が一年を通して吹く立地条件である。そのため、南側開口部は全て換気スリット組込み型サッシを設け室内へ自然通風経路を確保し、快適なオフィス空間となる計画とした。

アクティブデザインによる CO2 排出量削減計画

●空調計画
 各事務室において、高効率 4 方向吹出しユニットをバランスよく均等に設けることで、均一な温熱環境と創出し多様なオフィスレイアウトに対応できる計画とした。また、空調負荷が過大となるペリメーターゾーンは、吹出し能力値を上げることで空調エネルギーを低減し CO2 排出量低下に努めた。

●照明計画
 照明設備は全て LED 照明とし、ホールやロビーといった共用部は全て人感センサー付き照明機器を採用することで余分な照明エネルギーを削減する方針とした。また、時間制御・エリア制御により自動点灯・消灯とすることで、一元管理しやすく照度制御が可能な照明計画とした。



- ☒ : 日射に対する配慮
- ≡ : 通風に対する配慮
- ⌈ : 空調に対する配慮
- : 照明制御に対する配慮

